

10) 法動態部門

高 影娥 (講師・民法)

2013年度の研究活動は次の三つに分けられる。

第1に、北海道大学審査博士学位論文である「人身損害賠償請求権の日韓比較法研究 - 生命侵害の場合を中心に - 」の一部を韓国法中心にまとめて補筆する作業が完了し、2013年5月31日発行された『北大法学論集』第64巻第1号に載せられた。

第2に、アスベストによる健康被害に関して国家と製造メーカーの責任可否が争われた首都圏建設アスベスト訴訟において、国家の責任を認めた2012年12月5日の東京地方裁判所判決をきっかけに、日本における建設アスベスト訴訟の近時の動向について研究した。これは、「日本建設アスベスト訴訟の最近の動向」を韓国の江原大学校付属比較法研究所環境法センターで発行される『環境法と政策』第11巻に載せられた。

第3に、東アジアでにおける成年後見制度の比較研究である。韓国では2013年7月1日から成年後見制度が施行されたが、うまく定着するためにも先に成年後見制度を導入・施行している日本や台湾との法制度比較及び利用状況を把握することが必要である。そのアウトプットとして、2014年5月23日に北海道大学の教員及び札幌の実務家共同の成年後見研究会で「韓国の成年後見制度」について、同年7月11日に北海道大学民事法研究会で「韓国成年後見制度における特定後見について」を報告する予定である。なお、同年8月22日に韓国ソウルの韓国外国語大学校で開かれた東アジア法哲学学会では「現代福祉政策と成年後見制度 高齢化社会での法の役割」に関して報告する予定である。

教育活動としては、法学部・法学研究科の合併授業である「韓国民法」を担当した。韓国の民法は日本の民法と類似している部分も多いが、特別法の多い不動産関連法や親族・相続法のように韓国の慣習と大陸法体系が融合している部分もあるので、両国の民法をより深く理解するために、日本民法と比較しながら、韓国の判例などを紹介した。

その他の活動として、東アジアの学术交流を深めるために開かれた東アジア民事法学会国際シンポジウム(2012年12月21・22日)に翻訳及び通訳として参加した。

論文

論文標題	雑誌名	発行年	頁
人身損害賠償請求権の日韓比較法研究(2・完) - 生命侵害の場合を中心に -	北大法学論集 (第64巻1号)	2013年5月31日	106[175]-53[228]
日本建設アスベスト訴訟の最近の動向	環境法と政策 (第11巻)	2013年11月30日	167-194